

2012年1月31日(火) 17:30~18:10

【出席者】

取締役常務執行役員 経営管理担当 小酒井 健吉
執行役員 営業本部 営業企画部長 登林 浩司
執行役員 開発本部長 村上 誠一

【2011年度第3四半期決算】

ラジカット

Q/ラジカットについて、第3四半期の売上高は前年同期比26%の減収であったが、今後の見通しをどのようにみているか？

A/DPC施設を中心に後発品の影響が拡大しており、12月末までに後発品のシェアは数量ベースで20%程度とみている。当面はこの傾向が続くと考えているが、DPC施設での切り替えが一巡した後は、先発品としての一定のメリット(蓄積した適正使用情報の提供など)は出せると考えており、売上高が激減するような状況は想定していない。

テラビック

Q/テラビックについて、全例調査の契約・症例登録は進んでいるのか？ また、今後、進捗状況を医療機関以外に開示する予定はあるか？

A/2011年12月末時点では、契約施設数163軒、登録患者数が130例であったが、2012年1月30日時点では、契約施設数363軒、登録患者数532例となっており、順調に登録が進んでいる。全例調査の進捗状況について、現時点では医療機関以外への開示は考えていない。

シンポニー

Q/シンポニーについて、関節リウマチ市場におけるレミケードとのカニバリゼーションは起きているか？

A/シンポニーの売上はまだ僅少なので十分な分析はできていないが、競合品からの切り替えが、新規患者での使用より若干多いと思われる。また、皮下注製剤を望む患者さんのニーズによりレミケードからの切り替えも若干発生しているが、大きなカニバリゼーションは起こっていない。

Q/自己注射の適応を取得していないことが、デメリットになっていないか？

A/シンポニーは、他剤に比べて投与間隔が4週間と長く、患者さんの来院に合わせ、医師の管理下で安心感のある治療を受けられるため、デメリットはないと考える。

Q／他社が関節リウマチ治療薬として、経口ヤヌスキナーゼ（JAK）阻害剤の国内申請を行ったが、レミケードやシンポニーへの影響をどのようにみているか？

A／まだ情報が不足しており、現在情報収集中である。

イムセラ

Q／イムセラについて、国内の投与患者において突然死は出ているのか？

A／臨床試験、市販後とも発生していない。

Q／EMA や FDA が、ジレニアの安全性に関する調査を開始したが、日本でも厚生労働省の調査や指導が行われるのか？

A／現時点ではそのようなことは聞いていない。

Q／国内でも、欧米と同様に、初回投与後 6 時間にわたり心電図によるモニタリングを行うなどの対応を実施しているのか？

A／1 月 20 日の EMA のリリースを受けて、医療機関には事実関係の説明と確実な初回投与後の観察をお願いしている。

技術導出契約金等（ロイヤリティ）

Q／技術導出契約金等（ロイヤリティ）について、第 3 四半期に 20 億円を計上しているが、この大半がジレニアのロイヤリティ収入だと考えてよいのか？

A／ジレニアのロイヤリティ以外も含んだ金額であるが、他はそれほど大きくはない。

Q／2011 年度のジレニアの全世界での売上高が約 5 億ドルになったとノバルティスは公表している。技術導出契約金等の通期予想が 60 億円となっているが、第 3 四半期累計の実績が 50 億円であることを考えると、通期予想は保守的過ぎないか？ また、ジレニアのロイヤリティ収入は会社予想を上回っているのか？

A／第 4 四半期が保守的にみえるのは、技術導出契約金等の通期予想を期初から変更していないためである。ジレニアのロイヤリティについては会社予想を上回って推移しており、通期実績は予想を上回る可能性が高い。

販管費

Q／研究開発費について、例年の第 3 四半期と比較して進捗が高いようにみえるが、導入一時金の支出があったことが要因か？ 導入一時金の金額は開示可能か？

A／第 3 四半期に導入した TRK-820 と Hib ワクチンのライセンス契約締結に伴う導入一時金の支出や TA-7284 など国内開発関連の支出により、前年同期と比べ増加しているが、計画通りの進捗と考えている。導入一時金の開示については、契約に係わる事項のため控えさせていただく。

Q／販管費のその他について、進捗が遅れているようにみえるが、計画通り使い切ることができるのか？

A／現時点では、計画通り進捗するものと考えている。

来期業績予想

Q／来期の営業利益について、約 800 億円と予想するアナリストもいるが、営業利益の水準をどのように考えればよいか？

A／薬価改定の影響も未定であり、現時点でお答えできる状況にはない。

【開発パイプライン】

Q／テラビック(MP-424)の C 型慢性肝炎ジェノタイプ 2 型ウイルスへの適応拡大について、フェーズ 3 試験を行う必要があるのか？ また、試験期間はどれくらいかかるのか？

A／フェーズ 3 試験を行う必要があり、現在実施中である。試験期間については、1 年程度は要すると見込んでいる。

以上